



「高台左平次通久斎
鳥居強右衛門勝頼(はりつけ)之図」

戦国時代 ある下級武士の 命をかけた忠義と壮絶な最期の話

2022年が始まりました！皆様お元気でしょうか！代表の息子の麻田秀人です！
ネガティブなニュースに負けることなく、心と体を熱くして頑張ってください！

今回は私の好きなお話を書きます。それは日本の歴史の1ページのお話。



時は戦国時代の真ただ中、天正3年(1575年)。奇烈な時代の熱き壮絶な男のお話です。

その男の名は、**鳥居強右衛門勝頼**(とりいすねえもんかつあき)。

その2年前の元亀4年(1573年)は**武田信玄**が亡くなった年。2年を経た天正3年(1575年)は、**織田信長・徳川家康**連合軍と**信玄**の死により家督を相続した**武田勝頼**の軍勢が戦った合戦、そう『**長篠(ながしの)の戦い**』である。

鳥居強右衛門が歴史の表舞台に登場するのは、この長篠の戦いの時だけで、それまでの人生についてはほとんど知られていない。彼は当時徳川氏に臣従していた**奥平家**に仕えていた下級武士。
長篠の戦いに参戦した時の年齢は36歳。

奥平家当主であった**奥平貞能**(さだよし)の長男**貞昌**(さだまさ)は、三河国の東端に位置する長篠城を**徳川家康**から託され、約500の城兵で守備をしていた。天正3年5月長篠城は**勝頼**が率いる1万5,000の武田軍に攻囲された。8日の開戦に始まり連日攻撃を受けながらも何とか防衛していたが、武田軍から放たれた**火矢**によって、兵糧庫を焼失。食糧を失った長篠城は長期籠城の構えから一転、あと数日で**落城**という絶体絶命の状況に追い詰められた。
貞昌は最後の手段として、**家康**のいる**岡崎城**へ使者を送り、援軍を要請しようと決断するが、城を抜け出して岡崎城まで行くことは到底不可能と思われた(岡崎城の**家康**も武田軍と長篠での決戦に備えて同盟者の**信長**に援軍の要請をしていた)。
この命がけの困難な役目に自ら志願したのが、それまでは名もなき下級武士の**鳥居強右衛門**であった。

宵闇の中、城の下口水口から出発。川を潜ることで**武田軍**の包囲網を突破した。翌朝、長篠城からも見渡せる雁峰山(がんぼうざん)から狼煙(のろし)を上げ、脱出の成功を連絡。そこから直線で約40kmもある岡崎城に午後にはたどり着き援軍の派遣を要請した。既に**信長**の援軍3万が岡崎城に到着しており、**織田・徳川連合軍**3万8,000は翌日にも長篠へ向けて出陣する手筈となっていた。これを知って喜んだ**強右衛門**は、この朗報を一刻も早く味方に伝えようと、信長公・家康公の慰留を辞し、すぐさま長篠城へ向かって引き返したのだ。

16日の早朝、往路と同じ山で狼煙を上げて援軍が来ることを城内に知らせた後、再入城を試みた。ところが城の近くで**武田軍**の兵に見付かり、捕らえられてしまった。烽火が上がるたびに城内から上がる歓声を不審に思う包囲中の**武田軍**は、警戒を強めていたのだ。

強右衛門への取り調べによって、**織田・徳川**の援軍が長篠に向かう予定であることを知った**勝頼**は、援軍が到着してしまう前に一刻も早く長篠城を落とす必要性に迫られた。そこで**勝頼**は、命令に従えば**強右衛門**の命を助けるばかりか武田家の家臣として厚遇するを条件に「**援軍は来ない。早くあきらめて城を明け渡すべき**」と虚偽の情報を伝えるよう、**強右衛門**に命令した。そうすれば、武田軍の士気は急落し、城はすぐに自落すると考えたのだ。

強右衛門は**勝頼**の命令を表向きは承諾し、

長篠城の西岸の見通しのきく場所へと引き立てられた。

最初から**死を覚悟**していた**強右衛門**は、仲間が見守る城内に向かって

「二、三日のうちに援軍が来る！それまで絶対にあきらめるな！！」

と大声で叫んだのだ！これを聞いて烈火の如く怒った**勝頼**は

その場で**強右衛門**を磔(はりつけ)にして処刑した。



鳥居強右衛門が味方に援軍が来ることを伝える場面の最終
(福岡周延作)

この**強右衛門**の命をかけた忠義と壮絶な最期に、長篠城内の貞昌と城兵たちは、**強右衛門**の死を無駄にしてはならないと士気を奮い立たせ、援軍が到着するまでの二日間、堀のたにしを食べて飢えをしのいで戦い続け、見事に武田軍の攻撃から城を守り通すことに成功した。

そしてこの歴史に残る忠義が5月21日の武田軍を壊滅に追いやった**設楽原本戦の大勝利**を呼び寄せたのであった。

後の話として援軍の総大将であった**信長**も、長篠城の味方全員を救うために自ら犠牲となった**強右衛門**の最期を知って感銘を受け、強右衛門の忠義心に報いるために立派な墓を建立させたと伝えられている。

そんな**鳥居強右衛門勝頼**(とりいすねえもんかつあき)のお話でした。

改めて、熱くなるなあ～！また素敵なお話があったらお伝えしますね！



ASADA 通信

Vol. 94

2022年02月

今月のテーマ

I 「私には無理」という思い込みを
捨てたら人生が好転した!!
誰でも出来ます！

II 幸せホルモンが自律神経を整える
感謝が心を変える

III 戦国時代 ある下級武士の
命をかけた忠義と壮絶な最期の話

想いをのせて 感謝 ありがとう

皆さまお元気で過ごしてようか。
コロナやオミクロンの収束の日が又遠くなってしまいました。
私の事務所には給付金の連絡が頻繁に入ります。
その中でコロナに感染した方は2020年に6名でした。
その内入院した方は4名、陽性無症状の方は2名で、
ホテルなどに隔離されました。2021年は1名のみ。
今年は海外で感染された方が1名、病院は満床の
為自宅療養です。今まで幸いにも死亡者0です。
皆様、元気に後遺症もなく仕事を続けています。
アメリカのCDC＝疾病対策センターは、ファイザーやモ
デルナの新型コロナウイルスワクチンの3回目接種に
よって感染を防ぐ効果が、オミクロン株に対しても90%
に上昇するという分析結果を1月21日に公表しました。

今、子ども達に感染が広がっているのがとても心配です。
引き続きマスク着用と手洗い、うがいを続けていきましょう。
「ただの風邪と同じだろう」はやめた方がよいと思います。

もう少しがんばりましょう！

必ず安心できる日常がくることを信じて。



さて、今月の14日はバレンタインデーです。
日頃の感謝を込めてプレゼントを同封致しました。
今年も北海道帯広市の**六花亭**から取り寄せました。
連名のお客さまにはお二人分同封しておりますので仲良く
召し上がって下さいね。
何故六花亭を選んでいるのか？

89年の歴史ある北海道お土産の代名詞として六花亭
があり、美味しいお菓子作りと「**ホワイト企業**」(ブラック企
業の反対)であること。満足度100%の社員さんが作る
お菓子です。私の要望通りにビターチョコレートに2個づつ
を袋詰めしてくれています。



六花の森の
坂本直行記念館



北海道の画家
坂本直行

包装紙は北海道の草花が描かれています。
北海道出身の自然画家である坂本直行さんが描かれた
ものです。

因みに明治維新で活躍した坂本龍馬の子孫です。

チョコレートを召し上がりながら、このようなことを思い馳せ
ていただけたら、より一層私は嬉しいです。



デジタル化 しますと紙で 通知する



株式会社 ASADA
オフィス

住所：〒302-0015 茨城県取手市井野台1-7-28
TEL：0297-72-2401 FAX:0297-72-6217

代表取締役 麻田 春江

E-mail：info@officeasada.com
URL：https://officeasada.com



Ⅰ 「私には無理」という 思い込みを捨てたら 人生が好転した!! 誰にでも出来ます!!

コロナ禍で閉塞感を感じられている方も多いように感じられます。今回はある女性の生きた半生から私たちの誰もが知らずに持っていた「思い込み」に焦点を当てました。

致知出版の「新春講演会」でもシンクロナイズドスイミング日本代表ヘッドコーチの井村雅代さんは「私は出来ない」と言っている人のほとんどは「思い込み」であって本当は出来るのです、と話していました。

今からじゃあ遅いよ～と言っている方!! ほら、それが思い込みなんです。取り敢えずお読みください!!

平田理恵さん(仮名)は、7歳の時父親の突然の死に直面する。死と向き合い、悲しみを乗り越えた経験者。

この理恵さんが30才の時の事(昭和52年/1977年)、夫の妹から一通の手紙を受け取る。「母親は未亡人なので少しでも仕送りをして貰えないか」という内容だった。当時、女性は結婚したら家事と育児に専念するというのがごく普通の世の中だった。子供は5才と1才、夫はサラリーマン。貯金もままならない状態で仕送り!は到底無理だった。



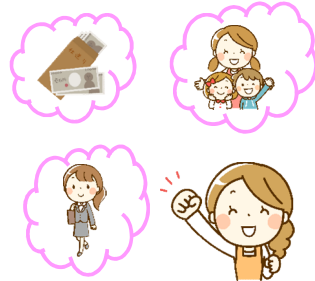
しかし、理恵さんの取った行動は、**働いて仕送りをしよう!**

「嫁いだ先の親は自分の親と同じ。大切にしないさ!」理恵さんの母親の教えである。

しかし、働くごにも子どもを置いては無理。女性の働く職場は現在とは違い選択肢は少ない。幼い子がいたら雇ってくれない。保育所に預けるには、まず働いていないとダメ。(職場に市役所の職員が確認に来た時代)夫は全く協力的ではない。むしろ働くことは大反対。仕送りのことなど聞く耳さえない。ダメダメづくし。八方塞がり状態。ATM、FAXも銀行振り込みもクレジットカードも無い時代。理恵さんは考えに考えた挙句、働くことについて何故働きたいのか整理した。

結果、**心の中にある願望を決意に変えた。**

1. 義母への仕送りのため
2. 子どもを保育園で伸び伸びと**どろんどろん遊び**でも何でもやらせたい
3. 主婦と子育てだけの人生で終わりたくない
4. 同世代の人ばかりいる団地で子育てをしたくない
(子どものことで言い争いをしているママ達を見て)
5. 親の生きる背中を見せることは無言の教育とやる



願望が決意に変わった時、「**引き寄せの力**」が働いたのか、一枚のチラシを手にする。

～ファッションアドバイザー募集! 保育所完備!～

当然直ぐに電話をして、翌日面接に行った。たぶん洋服屋さんの店員だろうと思いつつながら。

“どのような仕事でしょうか? 予想もしていなかった答えが返ってきたのです。

女性の下着の訪問販売だった。この瞬間まで理恵さんにとってセールスは「**出来ない仕事NO.1**」だったのです。

頭の中は**ムリ! ムリ! ムリ!**。1分前まであたかも未来が開けたように思えたのが一瞬にして私には**ムリ!!!**



1. 条件は家から会社までの往復はマイクロバスで送迎してくれる。
2. 幸い、預かっている子どもはいなかったのでマンツーマンで見られることになった。保育料0。
3. 資本金なし。買い取りなし。販売商品は1枚7500円の下着。

説明も上の空。頭の中は混乱状態。しかし、ここで断ったら未来はないのだ!

さあ! あなたならどうする!

沈黙後、ふと壁ぎわの黒板を見た。女性の名前4名とグラフが書かれていた。成績表かな? 同じ女性でもセールスをやっている人がいるんだ～。その時、一瞬にして「**やれている人がいるってことは私にもそこそこ出来るかも知れない!**」

やってみなくちゃわからない!に変わったのです。



そして一ヶ月後、営業所開設以来初めての新人賞、月間60万円を達成したのだった。(1977/12)

右も左もわからない、知り合いなし、子どもの援助はこの人だけ。社員教育なし。

夫には内緒。バレたら離婚かも。

毎日4時間の販売時間。毎日が飛び込み営業。初対面の人に試着してもらいその場で領収。

その後も波乱万丈が続きますが、家事、育児もしっかりとやり遂げ、念願の仕送りは月額3万円(当時は高額)は達成できた。理恵さんの名前での送金は10年、その後夫の名前で送金し続けた。

しかし、義母から「**ありがとう**」は一言もなかった。挙句の果てに「**余計なことをして恩着せがましい**」と激怒された。

夫からは「**誰が仕送りしろと言ったんだ**」と叱られた。

理恵さんはその後の人生も困難を乗り越え、笑顔で生き生きと生涯現役で頑張っています。



★2022年 正月に 理恵さんと対談した内容です★

麻田 30才の時仕事を持とうとした。**絶対ムリ!**からやってみようと思った時の心の変化は何だったのでしょうか。

理恵 その時は私にもできるかも～だけだったのですが、今思うと「**思い込み**」と「**固定観念**」に脳がブロックされ縛られていたと思います。誰にでもあるかもしれないですね。よくよく考えてみたら、**やった事もないのに、出来るも出来ないも分からないのに、何で出来ないか決めつけてしまうの? それも可笑しいと思ったのです。**余り重く捉えない方が良くと思います。軽く考えた方がうまくいくと思います。まずはやってみる事です。

麻田 それと働くことへの思いを整理した。そして目標を明確にした。これもすごく良かったのだと思いますね。

理恵 小さな子供がいて頼れる人がいない中で働きに出ることは「**清水の舞台**」から飛び降りる程の覚悟だった。目標をきちんと明確にした事は良かったとずっと思っています。

麻田 ご主人のみならずお義母さまの冷たい言葉は、当時どのように捉えましたか?

理恵 言われた事はすごくショックでした。正直泣いた事もありました。でも、何時かは解ってくれる日が来ると思った。嫁姑なんて昔からこんなもんだろう。マツ!! いいか、です。(笑)10年程経った時一つ気付いた事があるんです。

麻田 気づきですか。どんなことかお話しいただけますか?

理恵 義母から見たら私は長男の嫁です。大正生まれの人にしたら嫁から貰うのは肩身が狭かったのだと思います。息子からならば当たり前として受け取れたのではないかと気づきましたので、夫にお願いして夫の名前で送金するようにしましたら何も言わなくなりました。私が善かれと思っても義母にとっては「**ばつの悪い思いをさせてしまった**」のではないかと反省しました。

麻田 その受け止め方素晴らしいですね。仕送りをやり続けることも凄い。又、お義母さまを憎むこともなく、逆に気遣いされたことは、私も勉強になります。その後、お義母さまは何か変わったりしましたか?

理恵 そうですね。「**理恵さんは私の本当の娘よ**」と言ってくれたのが、義母89才の頃かな? 嬉しかったですね。何時か解ってくれると信じていましたので、信じ続けることが大事だと思いました。そしてすべて感謝ですね。

麻田 そして、もう一つ、理恵さんの実のお母さまに教えられた事を忠実に実行した事も偉いなと思いました。理恵さんは常に「**人の道**」を守った生き方をしていること、「**物事をポジティブに捉えている**」こと。「**感謝として受け止める心づかい**」が、人としての仕合せ感あふれた人生になっていると私は気づかされました。

本日は大変勉強になりました ありがとうございます。

Ⅱ 幸せホルモンが自律神経を整える 感謝が心を変える

「**オキシトシン**」という脳内ホルモンがある。誰かを愛したり、人に優しくした時、脳の視床下部から分泌される。

高橋院長の元にやって来た60才の女性は、ひどい肩凝りと不眠に悩み、不安でイライラすることが多かった。四人の子供は独立し、会社経営の夫と二人暮らし。夫から言葉の暴力を受けている事でストレスになり、心身共に不安定になっていた。

院長は鍼治療をしながら「**男は見栄を張って生きている動物で愚痴は家でしかこぼせないものなんだ。**

四人の子どもを育て上げ、今こうしてられるのはご主人のお陰でもある筈だよ。最初は嘘でもいい、**少しでも感謝してみてください**」一瞬驚いたようだが「**そうしてみますね**」と言って帰って行った。

その後、医院に何度か来る度に笑顔を取り戻し、朗らかな表情で話をしてくれるようになった。肩凝りや不眠症も改善したのは言うまでもない。

